

平成24年度(2012)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター一年報

平成25年7月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成24年度
花・野菜技術センター年報
目 次

I 総 説

1. 沿革	1
2. 位置及び土壌	2
3. 用地及び利用区分	2
4. 機 構	2
5. 職 員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建 物	5
8. 施設及び備品	6

II 作 況

1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7

III 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部	11
2. 技術普及室	13

IV 試験研究及び地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験	14
2. 栽培環境に関する試験	15
3. 病害虫に関する試験	17
4. 技術体系化に関する試験	18
5. 地域支援に関する試験等	18

V 研修事業の概要

1. 概要	19
2. 研修事業の推進	19
3. 北海道花き・野菜技術研修	20
4. 研修ほ場作付概要	24

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料	25
2. 印刷刊行物	28
3. 普及事項	28

VII その他

1. 職員の研修	30
2. 見学・参観	30
3. 研修生の受け入れ（研修事業以外）	31
4. 委員会活動	31
5. 公開デー2012の実施	32
6. 講師等の派遣	32
7. 各種委員	33

VIII 自己点検への対応	35
----------------------	----

I 総説

1. 沿革

(1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、道立農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術の改善および生産物の流通技術等に関する試験研究を効率的に推進する。また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的、かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」も改正、4月に職員も配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

(2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設され、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

(3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

(4) 研修体制及び技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに研修業務と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務

部から新設の技術普及部に移管し、更に、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

その他、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員及び研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。また、平成22年度より、独法化に伴う組織改正での技術普及部の廃止にともない、技術普及室が新設され道所属の普及指導員が駐在し普及業務を担っている。

2. 位置及び土壌

滝川市東滝川735番地
北緯43° 35' 東経141° 59'

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

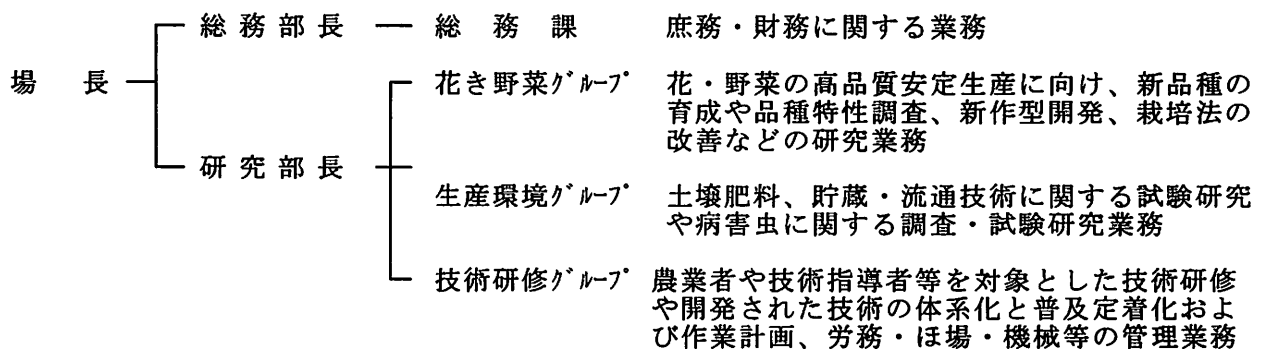
本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にパーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

3. 用地及び利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

4. 機 構 （平成24年3月31日現在）



（花・野菜技術センター技術普及室＊）

上席普及指導員 — 主任普及指導員

＊ 北海道農政部食の安全推進局技術普及課

普及センター等への支援、専門技術の調査研究

5. 職員

(1) 職員数 (平成25年3月31日現在)

区分	場長	部長	総務課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究(プロパ-)	1	1		8	7	3	20
研究支援(プロパ-)						5	5
研究支援(道派遣)		1	5			2	8
計	1	2	(兼務1外数) 5	8	7	10	33

(2) 現職員名簿 (平成25年3月31日現在)

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名	
総務部	場長	中野 雅章	生産環境G	研究主査	田丸 浩幸	
	総務部長	橋本 裕二	"	研究主任	野田 智昭	
	総務課	橋本 裕二	"	主査(病虫)	橋本 直樹	
	"	主査(総務)	"	研究主任	西脇 由恵	
	"	主査(調整)	小田 文子	"	"	野津 あゆみ
	"	指導主任	土田 操	技術研修G	研究主幹	川岸 康司
研究部	"	"	"	主査(技術研修)	小田 義信	
	主任	高松 誠治	"	主査(技術研修)	鈴木 亮子	
	研究部長	長尾 明宣	"	主査(研修)	得能 徹	
	花き野菜G	研究主幹	"	指導主任	佐藤 勝宏	
	"	主任研究員	生方 雅男	"	指導主任	及川 忠
	"	主査(花き)	黒島 学	"	"	玉川 忠
	"	研究主任	大宮 知	"	主任	南 貴夫
	"	主査(野菜)	福川 英司	"	"	寺口 佳孝
	"	研究主任	大久保 進一	"	"	梶山 幸道
	"	"	八木 亮治	(道技術普及室)		
	"	"	木村 文彦	"	上席普及指導員	藤田 寿雄
	生産環境G	研究主幹	角野 晶大	"	主任普及指導員	高橋 恒久
"	主査(栽培環境)	林 哲央				

(3) 転入・採用

職名	氏名	採用転入年月日	備考
総務部部長	橋本 裕二	24. 4. 1	上川総合振興局北部森林室
研究部 技術研修G 研究主幹	川岸 康司	24. 4. 1	道南農業試験場
総務部 総務課 主査(総務)	白木 和美	24. 4. 1	胆振総合振興局農務課
(道技術普及室)	藤田 寿雄	24. 4. 1	空知農業改良普及センター(南支庁)

(4) 転出・退職

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
総務部部長	山 石 祐 次	24. 4 . 1	総務部危機対策局危機対策課
研究部 技術研修G 研究主幹	大久保 利 道	24. 4 . 1	道南農業試験場
総務部 総務課 主査(総務)	深 瀬 秀太郎	24. 4 . 1	農業研究本部
研究部 技術研修G 指導主任	佐 藤 勝 宏	25. 3 . 31	退職

6. 収入支出決算額

(1) 収入決算額 (単位：円)

科 目	決 算 額
農産物売払収入	45,254
不用品売払収入	109,350
法人財産使用料等	400,742
その他雑収入	70
共同研究費負担金	1,700,000
国庫受託研究収入	4,000,000
道受託研究収入	2,770,700
その他受託研究収入	8,145,000
計	17,171,116

※事業費支弁人件費振替額を含む

(2) 支出決算額 (単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦 略 研 究 費	5,000,000	5,000,000	0	0
重 点 研 究 費	3,836,906	3,836,906	0	0
職 員 研 究 奨 励 費	1,746,000	1,746,000	0	0
経 常 研 究 費	14,274,000	14,274,000	0	0
技 術 普 及 指 導 費	5,605,000	5,601,470	0	3,530
研 究 用 備 品 整 備 費	2,440,000	2,440,000	0	0
維 持 管 理 経 費	121,040,263	119,355,157	0	1,685,106
運 営 経 費	13,893,070	13,761,793	0	131,277
共 同 研 究 費	1,700,000	1,700,000	0	0
国 庫 受 託 研 究 費	3,651,000	3,649,141	0	1,859
道 受 託 研 究 費	2,771,000	2,770,700	0	300
そ の 他 受 託 研 究 費	7,403,000	7,400,045	0	2,955
計	183,360,239	181,535,212	0	1,825,027

※事業費支弁人件費振替額を除く

7. 建物

(1) 現有 (平成25年3月31日現在)

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86 m ²
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
野菜温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室-1	〃	290.25
〃 -2	〃	290.25
環境制御温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟-1	〃	29.16
〃 -2	〃	29.16

< 続き >

名 称	構 造	面 積
総務課物置 3	木造平屋	26.46㎡
〃 4	〃	26.46
〃 5	〃	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93

8. 施設及び備品

(1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
該当なし					

(2) 新たに購入した備品（50万円以上）

品 名	数量	規 格 及 び 型 式	金 額	配 置
貨物兼乗用自動車	1	ニッサンキャラバン	2,406,140	技術研修G
可搬型発電機及び付属品	2	デンヨーGE-5500SS-IV	1,106,974	総務・技術 研修G

Ⅱ 作 況

1. 気象概要

(1) 冬期間の経過

根雪始は11月16日で平年より7日早かった。冬期間（11月～3月）の気温は低く推移した。とくに2月下旬の最低気温は平年より5.0℃低かった。降水量は11月下旬、12月中旬に多かったが全般に少なかった。日照時間は、11月中旬、12月中旬、1月中旬、3月中旬は多く、11月上旬、12月下旬、2月上旬は少なかった。根雪終は4月23日で平年より12日遅かった。根雪期間は161日間で平年より22日長かった。

(2) 農耕期間の経過

晩霜は4月21日で平年より23日早く、初霜は10月25日と平年より5日遅かった。無霜期間は184日と平年より29日長かった。

農耕期間（5月から9月）の平均気温は6月中旬、8月上旬が低かったほかは、並から高い傾向で推移した。とくに、5月上旬、8月下旬から9月下旬までは3.2～5℃高く推移した。農耕期間の積算気温は2885.1℃で平年の108%であった。

降水量は6月中旬、8月上中旬、9月中旬が多かった。とくに9月中旬は平年の237%の降雨があった。また、6月上旬は寡雨であった。農耕期間を通しての積算降水量は547mmで平年の101%であった。

本年の農耕期間の気象は、4月下旬から5月上旬及び8月下旬から9月下旬の高温、6月上旬・下旬の寡雨、8月上中旬、9月中旬の多雨が特徴的であった。

(3) 月別の経過

4月：平均気温は上旬が低く、下旬は高かった。降水量は下旬が少なかった。日照時間は上旬が少なく、下旬は多かった。

5月：平均気温は上旬が高かった。降水量は上中旬が少なかった。日照時間は並であった。

6月：平均気温は上旬がやや高く、中旬はやや低かった。夏日は9日あった。降水量は上旬・下旬が少なかった。日照時間は下旬が多かった。

7月：平均気温は上・下旬がやや高かった。夏日が15日、真夏日は5日であった。降水量は上旬が少なかった。日照時間は中旬が多かった。

8月：平均気温は上旬は低く、下旬は高かった。夏日は19日、真夏日は3日であった。降水量は上・中旬に多く、下旬は少なかった。日照時間は中旬が少なく、下旬はやや多かった。

9月：平均気温は全般に高かった。夏日は14日、真夏日は3日あった。降水量は中旬に多く、下旬は少なかった。日照時間は上旬が多かった。

10月：平均気温は上旬がやや高かった。降水量は上旬が少なかった。日照時間は中・下旬が少なかった。

2. 野菜類の生育状況

(1) メロン（対象品種：「ルピアレッド」）

定植前の4月下旬は平年に比べ日照時間が多く、気温も高かったことから地温の確保が容易であり、活着は順調であった。5月下旬までの日照時間や気温は概ね平年並であり、生育は順調であった。開花期～着果期である5月下旬～6月上旬の日照時間や気温は平年並みからやや良好で、着果は順調であった。降水量は生育期全般で少なく、乾燥気味であった。そのため、昨年と異なり菌核病の発生はみられなかった。また、一部の品種では収穫期に近づくに従い、草勢が弱まり、萎れが観察された。

(2) かぼちゃ（対象品種：「えびす」）

6月13日定植のセル成型育苗による露地早熟作型で栽培した。定植期の6月中旬の降水量は平年よりやや多かったことから、活着は順調であった。その後も、開花期である7月中旬まで気温は平年並であり、日照時間が多かったことから生育及び着果は良好であった。8月に入り降水量が非常に多くなったが、6月下旬以降がやや干ばつ気味であったこともあり、湿害の発生はみられず順調に生育した。また、うどんこ病は初発が遅く、発生程度も小さかったことから、乾物率は19.6%とほぼ平年並となる等、内部品質は平年並となった。一株あたりの着果数および平均一果重は平年並であり、良果収量は226kg/aと平年とほぼ同等となった。

(3) いちご（対象品種：「けんたろう」）

平成23年8月31日定植の無加温半促成作型で土

耕栽培した。3月下旬～4月中旬の気温は低めに推移したが、ハウス内融雪期が3月15日と早かったため、開花始期は4月16日で平年よりやや早かった。4月下旬～5月上旬の気温が平年より高かったことから、収穫始期は5月18日と平年より早かった。総収量は2986kg/10aと平年よりやや多かったが、収穫初期に灰色かび病が果実に発生したことから、規格内収量は1660kg/10aと平年よりやや少なかった。規格内一果重は13.5g、Brixは9.2%で、いずれも平年並みであった。

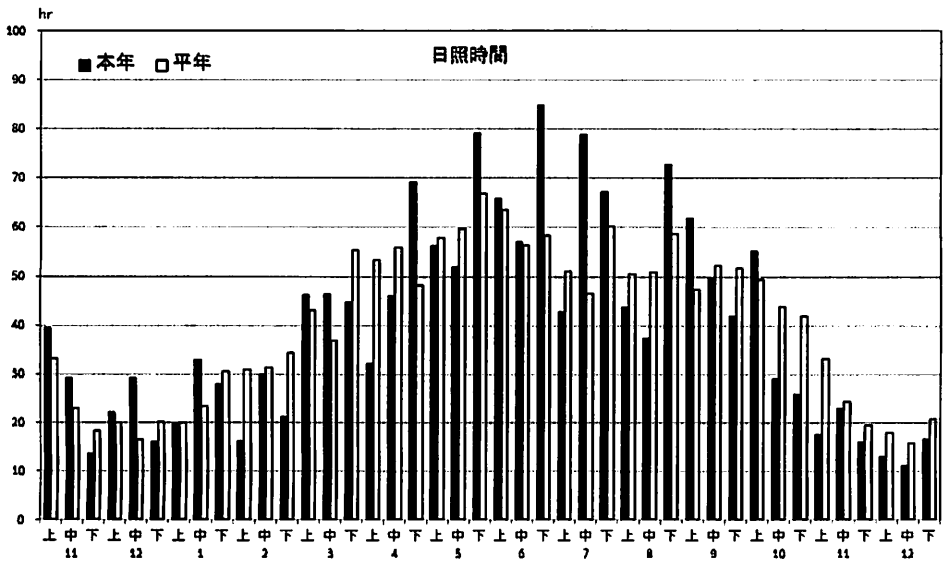
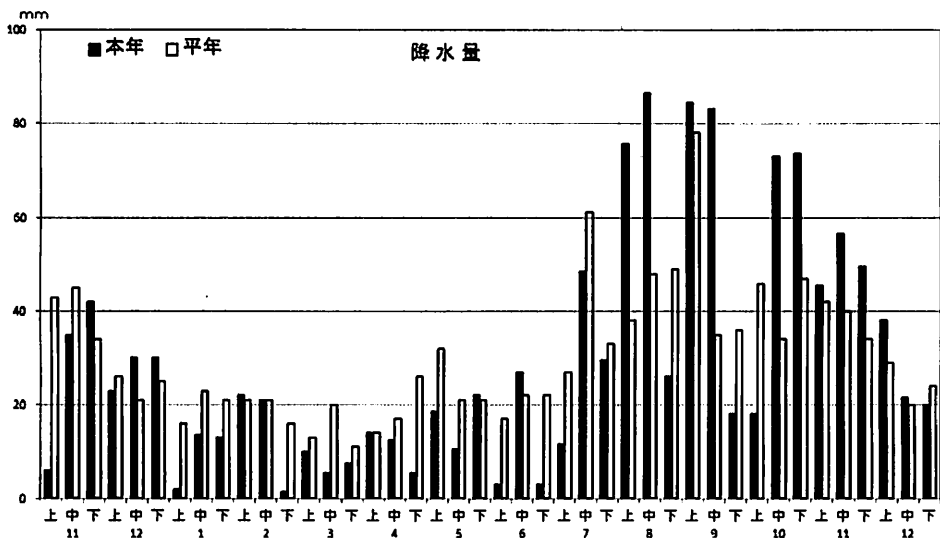
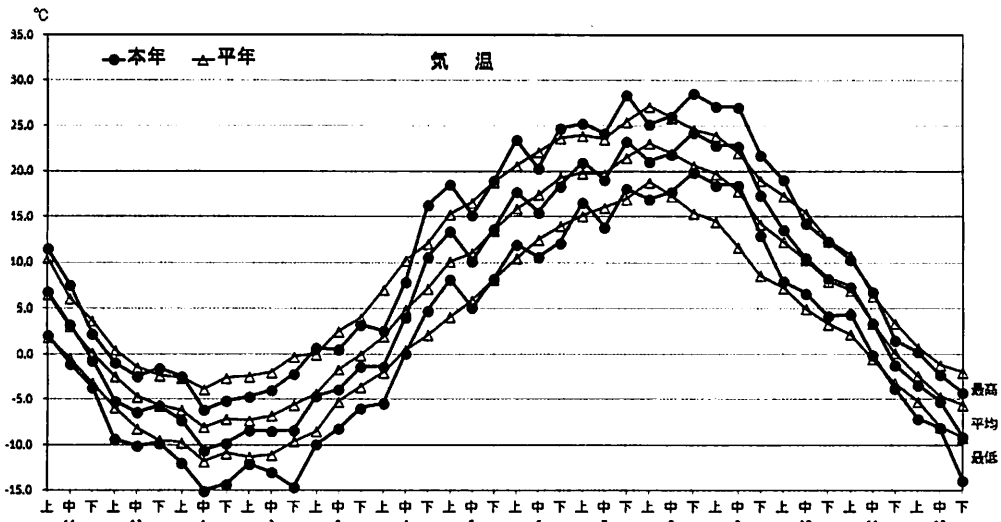
(4) たまねぎ (対象品種：「スーパー北もみじ」)

播種期は3月6日、定植期は5月11日の普通作型で栽培した。移植後の活着および初期生育は順調であった。リン酸増肥をしているものの試験圃場のリン酸肥沃度が低く球の肥大は緩慢で肥

大期は遅れた。収穫直前の9月上中旬に降水量が多かったため軟腐病の発生が多かったが、これ以外に特徴的な病害虫の発生は認められなかった。倒伏期は8月19日で、平年より10日程度遅く、規格内収量は483kg/a（平年比90%：圃場変更により参考値）で本年はやや低収となった。

(5) トマト (対象品種：「CF桃太郎ファイト」)

4月22日播種、6月17日定植のハウス夏秋どり栽培。育苗中および定植後の生育はほぼ順調で8月6日より収穫を開始した。目立った病害虫の発生はみられなかったが、第3～4果房で尻腐れ果が多く、9月以降には裂果が多発した。このため、総収量は昨年並の1200kg/aだったが、良果収量はやや低く769kg/aであった。収穫は10月15日に終了した。



平成24年度滝川気象図

気象表 (平成23年11月～平成24年12月)

年	月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(時間)		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
H23	11	上	6.8	6.5	0.3	11.5	10.5	1.0	2.1	1.9	0.2	6	43	△ 37	2	7	△ 5	39.3	33.1	6.2
		中	3.2	3.0	0.2	7.5	6.1	1.4	-1.1	-0.5	△ 0.6	35	45	△ 10	6	7	△ 1	29.2	22.8	6.4
		下	-0.7	0.1	△ 0.8	2.2	3.7	△ 1.5	-3.7	-3.2	△ 0.5	42	34	8	6	6	0	13.3	18.2	△ 4.9
	12	上	-5.2	-2.5	△ 2.7	-0.9	0.5	△ 1.4	-8.4	-6.9	△ 3.5	23	26	△ 3	4	6	△ 2	22.1	19.8	2.3
		中	-8.4	-4.7	△ 1.7	-2.5	-1.4	△ 1.1	-10.1	-8.2	△ 1.9	30	21	9	7	6	1	29.2	16.4	12.8
		下	-5.7	-5.7	0.0	-1.6	-2.3	0.7	-9.8	-9.5	△ 0.3	30	25	5	6	8	△ 2	15.9	20.1	△ 4.2
	1	上	-7.3	-6.2	△ 1.1	-2.5	-2.6	0.1	-12.0	-9.7	△ 2.3	2	18	△ 14	1	5	△ 4	19.7	19.8	△ 0.1
		中	-10.6	-8.1	△ 2.5	-6.2	-3.9	△ 2.3	-15.0	-11.8	△ 3.2	14	23	△ 10	4	6	△ 2	32.9	23.4	9.5
		下	-9.8	-7.2	△ 2.6	-5.2	-2.6	△ 2.6	-14.3	-10.9	△ 3.4	13	21	△ 8	5	6	△ 1	27.8	30.6	△ 2.8
2	上	-8.4	-7.3	△ 1.1	-4.7	-2.4	△ 2.3	-12.1	-11.3	△ 0.8	22	21	1	8	6	2	18.0	30.9	△ 14.9	
	中	-8.5	-6.8	△ 1.7	-4.0	-2.0	△ 2.0	-13.0	-11.1	△ 1.9	21	21	0	6	7	△ 1	29.8	31.4	△ 1.6	
	下	-8.4	-5.6	△ 2.8	-2.2	-0.3	△ 1.9	-14.6	-9.6	△ 5.0	2	16	△ 15	0	4	△ 4	21.1	34.4	△ 13.3	
3	上	-4.6	-4.4	△ 0.2	0.7	0.0	0.7	-9.9	-8.5	△ 1.4	10	13	△ 3	3	5	△ 2	46.1	43.0	3.1	
	中	-3.9	-1.7	△ 2.2	0.5	2.5	△ 2.0	-8.2	-5.2	△ 3.0	6	20	△ 15	2	5	△ 3	46.4	36.9	9.5	
	下	-1.4	-0.1	△ 1.3	3.2	4.0	△ 0.8	-5.9	-3.6	△ 2.3	8	11	△ 4	3	4	△ 1	44.6	55.4	△ 10.8	
4	上	-1.4	1.9	△ 3.3	2.6	7.1	△ 4.5	-5.4	-2.0	△ 3.4	14	14	0	5	4	1	32.2	53.3	△ 21.1	
	中	4.0	4.9	△ 0.9	7.9	10.3	△ 2.4	0.1	0.5	△ 0.4	13	17	△ 5	3	4	△ 1	46.0	55.9	△ 9.9	
	下	10.6	7.2	3.4	16.3	12.1	4.2	4.8	2.1	2.7	6	26	△ 21	3	5	△ 2	69.2	48.2	21.0	
5	上	13.4	10.1	3.3	18.5	15.3	3.2	8.2	4.1	4.1	19	32	△ 14	4	4	0	56.2	57.8	△ 1.6	
	中	10.2	11.0	△ 0.8	15.2	16.6	△ 1.4	5.1	5.9	△ 0.8	11	21	△ 11	2	2	0	51.8	59.6	△ 7.8	
	下	13.7	13.5	0.2	19.0	18.8	0.2	8.3	8.2	0.1	22	21	1	2	4	△ 2	79.2	66.8	12.4	
H24	6	上	17.7	15.9	1.8	23.5	20.6	2.9	12.0	10.5	1.5	3	17	△ 14	1	3	△ 2	65.9	63.5	2.4
	中	15.5	17.4	△ 1.9	20.3	22.2	△ 1.9	10.6	12.5	△ 1.9	27	22	5	2	3	△ 1	57.0	56.4	0.6	
	下	18.4	19.3	△ 0.9	24.7	23.7	1.0	12.2	14.0	△ 1.8	3	22	△ 19	2	2	0	84.8	58.4	26.4	
7	上	21.0	19.8	1.2	25.3	24.0	1.3	16.6	15.1	1.5	12	27	△ 16	3	3	0	42.7	51.0	△ 8.3	
	中	19.1	19.7	△ 0.6	24.2	23.6	0.6	13.9	16.0	△ 2.1	49	61	△ 13	3	4	△ 1	78.8	46.5	32.3	
	下	23.3	21.5	1.8	28.4	25.5	2.9	18.1	16.9	1.2	30	33	△ 4	1	3	△ 2	67.1	60.2	6.9	
8	上	21.1	23.1	△ 2.0	25.2	27.2	△ 2.0	16.9	18.8	△ 1.9	76	38	38	4	3	1	43.7	50.5	△ 6.8	
	中	21.9	22.0	△ 0.1	26.1	25.9	0.2	17.7	17.3	0.4	87	48	39	5	3	2	37.4	50.8	△ 13.4	
	下	24.3	20.6	3.7	28.6	24.6	4.0	19.9	15.4	4.5	26	49	△ 23	2	4	△ 2	72.7	58.7	14.0	
9	上	22.9	19.7	3.2	27.2	24.0	3.2	18.5	14.5	4.0	85	78	7	4	5	△ 1	61.8	47.4	14.4	
	中	22.8	17.8	5.0	27.1	22.1	5.0	18.5	11.7	6.8	83	35	48	5	4	1	49.7	52.2	△ 2.5	
	下	17.4	14.2	3.2	21.8	19.0	2.8	13.0	8.6	4.4	18	36	△ 18	4	4	0	41.9	51.7	△ 9.8	
10	上	13.6	12.3	1.3	19.1	17.3	1.8	8.0	7.3	0.7	18	46	△ 28	2	5	△ 3	55.2	49.3	5.9	
	中	10.5	10.3	0.2	14.3	15.4	△ 1.1	6.7	5.0	1.7	73	34	39	9	6	3	29.0	43.8	△ 14.8	
	下	8.3	8.0	0.3	12.3	12.4	△ 0.1	4.2	3.3	0.9	74	47	27	8	6	2	25.9	41.8	△ 15.9	
11	上	7.4	7.0	0.4	10.3	10.8	△ 0.5	4.4	2.2	2.2	46	42	4	4	6	△ 2	17.4	33.2	△ 15.8	
	中	3.4	3.4	0.0	6.8	6.4	0.4	-0.1	-0.5	0.4	57	40	17	5	7	△ 2	22.9	24.3	△ 1.4	
	下	-1.2	0.1	△ 1.3	1.5	3.4	△ 1.9	-3.8	-3.2	△ 0.6	50	34	16	8	6	2	15.9	19.3	△ 3.4	
12	上	-3.4	-2.4	△ 1.0	0.2	0.7	△ 0.5	-7.1	-5.2	△ 1.9	38	29	9	5	6	△ 1	12.9	17.9	△ 5.0	
	中	-5.2	-4.7	△ 0.5	-2.3	-1.2	△ 1.1	-8.1	-8.0	△ 0.1	22	20	2	6	6	0	11.1	15.7	△ 4.6	
	下	-9.1	-5.6	△ 3.5	-4.3	-2.0	△ 2.3	-13.9	-9.2	△ 4.7	20	24	△ 4	5	7	△ 2	16.6	20.7	△ 4.1	
5～9月積算			2885.1	2672.7	212.4	3625.4	3400.1	225.3	2139.5	1935.5	204.0	547	540	7	44	51	△ 7	890.7	831.5	59.2
平年比(%)			107.9			106.6			110.5			101.3			86.3			107.1		

注1. 滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値 注2. 日照時間は太陽電池式(新型)による。注3. 平年値は前10カ年の平均値。注4. △印は減を示す。

季節調査

	平成23年					平成24年								
	初霜 月.日	降霜始 月.日	根霜始 月.日	根霜終 月.日	根霜期 間(日)	降霜終 月.日	最大積 雪深cm	左起日 月.日	耕鋤始 月.日	晩霜 月.日	初霜 月.日	無霜期 間(日)	降霜始 月.日	根霜始 月.日
本年	10.28	11.15	11.15	4.23	161	4.13	(123)	(2.16)	5.11	4.21	10.25	186	11.18	11.16
平年	10.19	11.2	11.24	4.11	139	4.19	112	2.14	5.2	5.14	10.2	157	11.3	11.23
比較	9	13	△ 9	12	22	△ 6	-	-	9	△ 24	23	29	13	△ 7

注1 花・野菜技術センター観測資料による。ただし、カッコ内は滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。

Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部

(1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。野菜では、いちご・メロンの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。花きおよび野菜とともに、技術研修Gの技術研修を分担する。

「宿根かすみそうの新品種に対応した高収益栽培体系の確立」では、セル成型苗直接定植栽培における適切な摘心方法、芽の整理方法を示した。

「初夏どり枝物花き（スノーボール・テマリシモツケ）の栽培体系の確立」では、ビブルナム「スノーボール」幼木からの年次別せん定方法を示し、着花数の多い高品質な収穫枝を安定的に生産する方法を示した。また、既存株の生産性を高める樹形改善法を示した。さらに、萌芽期の切り枝を冷蔵後、常温で開花させて出荷期を調節する切り枝抑制開花技術の概要を示した。「花持ち保証に対応した切り花の品質管理技術の開発」では、スプレーカーネーションの切り前を早めて糖添加した場合の花持ち性を高温条件下で明らかにした。また、小売店や観賞利用場面での生け水に糖と抗菌剤を含む後処理剤を使用することで、高温期に多くの品種の花持ち性が向上することを明らかにした。

「園芸ハウスエネルギー性能評価方法確立に関する研究」では、園芸用ハウスの熱特性を明らかにした。

「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」、「地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価」、「冬季における水平埋設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプの園芸用ハウスへの適用」、「景観植物の導入試験」等の試験課題を継続した。

「野菜品種の適応性比較試験」では、「第63回全日本野菜品種審査会 キャベツ（春まき・良質系）の部」として、審査会が開催され、一等特別賞に「松島交配 祝園」（株）渡辺採種場）、二等に「タキイ交配 No. 1103」（タキイ種苗（株））と「サカタ交配 藍天」（株）サカタのタネ）、三等に「タキイ交配 No. 1116」（タキイ種苗（株））、「渡辺交配 NX-BY484」（渡辺農事（株））並びに「天理交

配 YSC-2237」（株）大和農園種苗販売部）が受賞した。「北海道向け民間育成メロン品種の特性調査」では、果実内部品質やカット適性が優れる赤肉品種の選定を目的として、生育・果実品質・収量特性に加え、糖度とその果実部位間のばらつき、可食部重（カット歩留り）、ドリップ量などを調査し、無加温半促成作型では「レッドヒル」、トンネル早熟作型では「パプリレッド」、「ラブソング」が有望と考えられた。また、北海道農政部食の安全推進局農産振興課所管の北海道野菜活力強化推進事業において「北海道ブランド品種」の認定の際の基礎資料として活用された。「たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術の実証・普及」では「たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術」（平成22年指導参考事項）を追捕し、アルギン酸Na溶液を0.05%濃度で少なくとも3回散布することで、培土の固化が良好となり、機械移植が安定することを示した。「加工・業務用カボチャ原料供給期間の拡大に向けた貯蔵技術開発」（平成21-22年度）では、果実の冬期貯蔵試験が完了したことから、成績をとりまとめた。収量性、貯蔵性、加工適性から「くりゆたか」、「ケント」、「白爵」、「とっておき」が業務向けに適しており、これらを10℃で保存することで加工可販率が2~3割落ちるものの、供給期間を1月下旬まで拡大できた。「TC2A」は乾物率30%以上の果実を仕分けて貯蔵すると同25%未満区より腐敗の発生が遅くなった。野菜の除草剤試験では、たまねぎ、にんじん各1剤の成果をとりまとめた。

「いちご、かぼちゃ、たまねぎの育成系統評価に係る栽培、調査業務」、「野菜地域適応性検定（いちご、メロン、たまねぎ）」、「カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発」、「トマトの秋季安定生産に向けた3段密植栽培技術の確立」等の試験課題を継続あるいは開始した。なお、「いちご多収性春どり品種育成および疫病抵抗性素材の作出」、「赤肉メロン品種の耐病性強化」は試験期間を満了し、次年度、それぞれ後続課題を開始する。

(2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害

虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

栽培環境に関する試験:①「リン酸施肥削減のための有機物中リン酸評価法および局所施肥法の開発」では、にんじんにおける圃場への有機物施用およびキャベツにおけるリン酸の育苗ポット内施肥や圃場での局所施肥が収量やリン酸吸収量に与える影響を明らかにし、中央・道南・十勝・北見の各農試の成果も合わせて「有機物の肥効評価と局所施肥を活用した畑作物・野菜に対するリン酸減肥指針」としてとりまとめ、普及推進事項となった。②「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」では、基肥量や分施肥時期を変えて栽培し、草丈、乾物重、着蕾期、切り花品質(管状花率)、採花後の花持ち程度等への影響を調査した。③「施設土壌の養分過剰を軽減するための堆肥施用指針の策定」では、現地のハウス栽培32地点、露地栽培17地点の土壌を調査するとともに聞き取り調査を実施し、堆肥の連年施用が土壌の理化学性に与える影響を調査した。④「生理障害診断試験」では、16件の診断依頼に対応した。⑤「ハウス窒素肥沃度の総合評価による道産野菜の硝酸塩低減化技術の開発」では、ハウス内土壌の熱水抽出性窒素に基づくほうれんそう栽培での減肥可能量や適応作型を明らかにし、上川農試のみずなでの成果と合わせて「ハウス葉菜類における土壌熱水抽出性窒素に基づく窒素施肥の適正化」としてとりまとめ、指導参考事項となった。⑥「北海道向け民間育成メロン品種の特性評価」では、加工適正項目の調査を担当し、果実内部品質やカット適性が優れる赤肉品種を明らかにし、花き野菜グループの成果と合わせ、「メロン(赤肉)品種の特性Ⅲ」としてとりまとめ、指導参考事項となった。⑦「北海道におけるさつまいも導入に向けた品種特性評価および栽培技術開発」では、寒冷地に適した栽培管理技術を明らかにするため、作型、栽植密度、苗の挿し方、等を変えて栽培し、収量、品質、窒素吸収量などへの影響を調査した。⑧「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、4地区8点の土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対策を示した。⑨「カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発」では、作型や栽培方法を変えて栽培・収穫した果実につき、腐敗果発生率や乾物率

等を調査した。⑩「キャベツに対する被覆肥料(セラコート)・苦土炭カル入りBB肥料の施用効果」では、リニア15日タイプが春まきキャベツに適しており、石灰散布や分施肥を省略できることを明らかにし、「キャベツに対する被覆肥料または苦土炭カル入りBB肥料の施用効果」として取りまとめ、指導参考事項となった。⑪「短節間かぼちやに対する短期溶出タイプ肥効調節型肥料の施肥法の確立」では、4タイプの肥効調節型肥料を用い、短節間かぼちやの果実収量と品質や着果揃い期における窒素吸収量、および栽培跡地の無機態窒素量等を調査した。⑫「ハウス軟白ネギに対するけい酸加里肥料の施用効果」では、肥料形態や量を変えた8処理区について、ネギの生育、収量、収穫時の無機養分含有量を調査するとともに、栽培期間中の土壌化学性の推移を調査した。⑬「農業資材試験」では、2点の肥料資材についてその効果を調査した。⑭「簡易養液栽培によるトマト3段密植栽培の検討」では、トマト3段密植での湛液型養液栽培において、4種類の培地で栽培されたトマト果実の内部品質調査等を担当した。

病害虫に関する試験:①「採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立型新採苗方式の確立」では、各増殖段階の苗の炭疽病保菌状況を調査し、従来のリレー苗方式よりも感染リスクが低いことを確認した。②「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」では、無防除栽培での病害虫発生状況、主要病害に対する薬剤や腋芽除去の効果、芯止まりとカスミカメムシの関係を検討した。③「すいかの炭疽病防除対策の確立」では、主産地での発生状況、無防除での発生推移、作型の違いと発病の関係、薬剤の効果の違いを検討した。④「農作物病害虫診断試験」では、139件の診断依頼に対応した。⑤「アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対する総合防除対策」では、場内での放虫試験や現地圃場試験において被害実態、発生消長、産卵越冬場所の調査を行うとともに、有効薬剤や産卵植物除去や焼却による効果を検討した。⑥「たまねぎ突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立」では、病原菌の接種時期や灌水時期と発病の関係および防除適期や回数等を調査するとともに、現地での発生状況や栽培・防除暦を調査した。⑦「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病、予察灯に

よるヨトウガ等、フェロモントラップによるコナガについて、時期ごとの発生量などを調査した。

⑧「農業資材試験」では、殺菌剤12点および殺虫剤11点についてその効果を調査した。また、複数事例で有効性が認められた16点の資材が指導参考事項となった。

(3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について各研究グループとチームを組んで体系化試験を実施するとともに、地域で解決が必要な技術的課題について、行政、普及、研究の三者が共同してプロジェクト課題として取り組んでいる。

プロジェクト課題：①「トマト褐色根腐病対策技術の実証」では、総合防除対策のうち、定植前のフスマ施用による発病軽減効果の実証を現地2か所、大玉及び中玉トマトで実施した。その結果、大玉トマトでは定植2ヶ月後の生育が無処理区より旺盛となり、高温時にも無処理区がやや萎れたのに対しフスマ処理区は萎れがみられなかった。また、中玉トマトの圃場では無処理区の根部病斑面積率が24%であったが、フスマ処理区は11.7%と明らかに低く、発病軽減効果が認められた。

2. 技術普及室

(1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業及び農業大学の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局及び関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

(2) 成果の概要

1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究及び普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策について積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地

区の課題解決プロジェクトに参画した。

2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する補完要請計画に基づき支援した。また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点課題、一般課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。さらに、気象災害や突発的な病害虫発生対策について技術普及課及び各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（花き、野菜）、高度専門技術研修（花き、野菜）について技術普及室のほか研究部からの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における講義・実習及び運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による経営管理研修や担い手基礎研修、農大稲作経営コース集中講義の研修に支援を行った。

4) その他

本年度は技術普及課及び各技術普及室と連携を取りながら、花き・野菜に関して「北海道生産技術体系」（第4版）の改訂作業を行った。

また、営農技術対策の提供や各種事業への助言など、生産者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

IV 試験研究及び地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験

(1) 宿根かすみそうの新品種に対応した高収益栽培体系の確立 (213211)

試験期間：平成21～24年

担当G：花き野菜G

目的：新品種の夏秋期出荷における収量及び品質の向上に向けたセル成型苗直接定植栽培法を確立する。

(2) 初夏どり枝物花き（スノーボール、テマリシモツケ）の栽培体系の確立 (213221)

試験期間：平成22～24年

担当G：花き野菜G

目的：初夏どりが可能な枝物（スノーボール・テマリシモツケ）の道内での栽培特性を明らかにし、これに基づく栽培体系を確立し、栽培マニュアルを策定する。

(3) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発 (213231)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：無側枝性輪ぎくの秋季出荷作型における開花調節法、肥培管理法および病害虫対策技術を確立する。

(4) 地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価 (513211)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜

目的：道内の民間企業が開発した地中熱交換システムについて施設園芸（野菜、花き）での利用方法、効率的な冷房、暖房方法の検討、作物に対する冷房、暖房効果の確認をする。

(5) 冬期における水平埋設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプシステムの園芸用ハウスへの適用 (723241)

試験期間：平成24年

担当G：花き野菜

目的：冬期における施設園芸向けの水平埋

設採熱方式を用いた地中熱ヒートポンプシステム開発の予備的試験を行う。

(6) 園芸ハウスエネルギー性能評価方法確立に関する研究 (513441)

試験期間：平成24年

担当G：花き野菜

目的：園芸施設におけるエネルギー効率利用の観点から、建築分野におけるエネルギー性能評価方法の農業分野への活用により、道内における園芸ハウスのエネルギー性能評価方法を具体化し、効率的な省エネ園芸施設の導入を促進する。

(7) 花持ち保証に対応した切り花品質管理技術の開発 (623221)

試験期間：平成22～24年

担当G：花き野菜G

目的：花持ち保証販売を可能とするため、切り花の高温による品質低下機構を解明するとともに、様々な品目に対応した品質管理技術の開発を目的とする。

(8) 野菜品種の適応性比較試験 (723251)

試験期間：平成24年

担当G：花き野菜G、技術研修G

目的：本道に向けた民間の品種開発が活発な品目について、適応性の比較検討を行い、本道に適した優良な新品種の選択及び導入、普及の促進に資する。

(9) いちご多収性春どり品種育成および疫病抵抗性素材の作出 (213301)

試験期間：平成20年～24年

担当G：花き野菜G

目的：高い果実品質を有し、安定多収な春どり系統を育成する。また、疫病抵抗性育種の効率アップのために育種素材の作出、夏秋どり有望系統の評価も併せて実施する。

(10) 赤肉メロン品種の耐病性強化 (513301)

試験期間：平成20年～24年

担当G：花き野菜G

目的：民間種苗会社との共同研究により、
土壌病害に抵抗性を持ち、北海道で安定して栽培
できる高品質な赤肉品種を育成する。

(11) いちご、かぼちゃ、たまねぎの育成系統評
価に係る栽培、調査業務 (713331)

試験期間：平成24年

担当G：花き野菜G、北見農試

目的：独立行政法人農業・食品産業技術総
合研究機構において育成された、いちご、かぼ
ちゃおよびたまねぎ系統について、道内におけ
る標準栽培法によりその適応性を検討する。

(12) 野菜地域適応性検定（いちご、メロン、た
まねぎ） (213300)

試験期間：昭和63年～

担当G：花き野菜G、上川農試、道南農試、
十勝農試、北見農試

目的：育成系統について各地域における適
応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

(13) 北海道向け民間育成メロン品種の特性評価
(333331)

試験期間：平成23～24年

担当G：花き野菜G、生産環境G、上川農試

目的：民間種苗会社と提携して民間育成品
種の評価を行い、北海道向けブランド品種を選
定する。

(14) カボチャの国内産端境期供給を目指した安
定生産技術の開発 a. 北海道の露地抑制作型に
おける栽培法の開発と貯蔵性との関係解明
(623332)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：かぼちゃの端境期である12～1月の
出荷に向け、北海道道央地区における露地抑制
作型の収穫限界を明らかにするとともに、本作
型で懸念される一果重の低下を回避する栽培法
を開発し、また(独)農研機構北海道農業研究セ
ンターが育成した高貯蔵性系統の本作型におけ

る適応性を検討する。

(15) トマトの秋季安定生産に向けた3段密植栽
培技術の開発 (213333)

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G、中央農試

目的：高単価が期待できる9月以降に収穫
を開始し第3果房まで収穫する3段密植栽培技
術の開発を行うとともに、開発技術の導入によ
る経営改善効果を検証する。

(16) たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術の
実証・普及 (325631)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、北見農試

目的：有機栽培用育苗培土（平成22年指導
参考事項）の普及・定着を図るべく、残された
課題を解決し、培土を安定的に固化させ移植精
度をさらに高める方法を提示する。

(17) 除草剤および生育調節剤 (729400)

試験期間：昭和40年～

担当G：花き野菜G

目的：野菜に対する除草剤の実用性を検討
する。

2. 栽培環境に関する試験

(1) リン酸施肥削減のための有機物中リン酸評価
法および局所施肥法の開発 (125921)

試験期間：平成22年～24年

担当G：生産環境G

目的：堆肥など地域で産出される各種有機
物に含まれるリン酸の肥効を的確に評価し施肥
リン酸の減肥につなげる、局所施肥向け肥料の
開発により施肥リン酸の利用率向上・施肥量削
減を図る。

(2) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術
の確立 (213231)

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：輪ぎくの秋季出荷作型における開花

調節法，病虫害対策技術，肥培管理法を確立する。

(3)施設土壌の養分過剰を軽減するための堆肥施用指針の策定 (215341)

試験期間：平成24年～25年

担当G：生産環境G

目的：施設土壌の養分過剰を軽減するため，堆肥を連用した土壌の養分蓄積状態を明らかにし，堆肥中の養分濃度に応じた堆肥施用指針を策定する。

(4)農作物病虫害診断試験 ②生理障害診断試験 (216500)

試験期間：平成8年～

担当G：生産環境G

目的：農業改良普及センター，農政部普及指導員を通じて当場に診断を依頼される農産物の生理障害による異常障害などを迅速に診断して，被害を最小限にとどめるための適切な対策を策定する。

(5)ハウス窒素肥沃度の総合的評価による道産野菜の硝酸塩低減化技術の開発 (322112)

試験期間：平成21年～24年

担当G：生産環境G

目的：従来の土壌硝酸態N評価に土壌熱水抽出性N評価を合わせた新たな窒素肥沃度の評価法を確立し，ほうれんそう等の硝酸塩低減化を図る。

(6)北海道向け民間育成メロン品種の特性評価 (333331)

試験期間：平成23～24年

担当G：花き野菜G，生産環境G

目的：行政・普及・農業試験場・市町村機関が連携して民間育成品種の特性を評価し，カット販売用品種を選定する。また，北海道野菜活力強化推進事業のなかで，「北海道ブランド品種」を認定する。

(7)北海道におけるさつまいも導入に向けた品種特性評価および栽培技術開発 (333341)

試験期間：平成24～26年

担当G：生産環境G

目的：寒冷地で栽培するさつまいもについて，道外産並の収量と品質を確保する栽培法・貯蔵法を明らかにし，道内での栽培の定着・産地支援を図る。

(8)農業農村整備事業等に係る土壌調査(455900)

試験期間：昭和40年～

担当G：生産環境G，各農試の同Gと分担

目的：土地改良計画地域の土壌を実施し，必要な改良指針を策定する。

(9)カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発 (623332)

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G，生産環境G

目的：露地抑制作型における収穫期頃の積算温度・最低気温や果実の貯蔵性の成分変化を調査し，貯蔵性との関係を解明し，道央地区における露地抑制裁培の収穫限界時期を明らかにする。また，当作型での一果重の低下を回避するための栽培法や高貯蔵性な新育成系統の適応性を検討する。

(10)キャベツに対する被覆肥料(セラコート)・苦土炭カル入りBB肥料の施用効果 (725323)

試験期間：平成22～24年

担当G：生産環境G

目的：キャベツ栽培において石灰欠乏から来る収量および品質の低下を軽減するとともに，分施作業を省力化して肥料コストを低減するため，うね幅全層施肥における被覆肥料(セラコートR15)・苦土炭カル入りBB肥料の効果を検討する。

(11)短節間カボチャに対する短期溶出タイプ肥効調節型肥料の施肥法の確立 (725341)

試験期間：平成24年～25年

担当G：生産環境G

目的：短節間カボチャの養分吸収特性に対応した肥効調節型肥料による効率的施肥法を開発し，分施の省略と収量の安定化を図る。

(12) ハウス軟白ネギに対するけい酸加里肥料の
施用効果 (725331)

試験期間：平成23年～25年

担当G：生産環境G

目的：ハウス栽培における軟白ネギの収量
および品質に対するけい酸加里肥料（園芸用細
粒タイプ）の施用効果を評価する。

(13) 農業資材試験 (729400)

試験期間：昭和45年～

担当G：生産環境G

目的：肥料および土壌改良材の野菜に対す
る実用性について検討する。

(14) 簡易養液栽培によるトマト3段密植栽培の
検討 (奨励)

試験期間：平成24年

担当G：花き野菜G，生産環境G

目的：トマト栽培における簡易養液・3段
密植法の可能性を検討する。

3. 病害虫に関する試験

(1) 採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自
立型新採苗方式の確立 (126331)

試験期間：平成23～25年

担当G：生産環境G、中央農試

目的：茎頂培養親株を元に、採苗施設と水
田転換畑を組み合わせたいちごの自立型新採苗
方式において、病害の感染リスク評価と媒介虫
動態の解明に基づく病害虫管理マニュアルと栽
培マニュアルを組み合わせた優良親株栽培マニ
ュアルを作成し、その有効性を実証する。

(2) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定生産技術
の確立 (213231)

試験期間：平成23～25年

担当G：生産環境G、花き野菜G

目的：輪ぎくの需要が大きい秋季出荷作型
を対象に、開花調節法、肥培管理法および病害
虫対策を確立する。

(3) すいかの炭疽病防除対策の確立 (216342)

試験期間：平成24～26年

担当G：生産環境G

目的：北海道の栽培に対応したすいかの炭
疽病防除対策を確立する。

(4) 農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診
断試験 (216500)

試験期間：昭和50年～継続

担当G：生産環境G

目的：突発的に発生する病害虫による被害
を防止するため、それらの診断を行うと共に、
道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し蓄
積する。

(5) アスパラガスのツマグロアオカミカメに対
する総合防除対策 (326331)

試験期間：平成23～25年

担当G：生産環境G

目的：アスパラガスのツマグロアオカミ
カメに対して、発生生態の解明ならびに耕種
的防除も含めた総合的な防除対策を確立する。

(6) たまねぎの突発性病害の灰色腐敗病およびべ
と病に対する効率的防除体系確立 (426331)

研究期間：平成23～26年

担当G：生産環境G

目的：たまねぎで突発的に多発生する灰色
腐敗病およびべと病の多発条件を明らかにし、
効率的な防除体系を確立する。当場では灰色腐
敗病を担当している。

(7) 病害虫発生予察調査 (426500)

研究期間：昭和16年～継続

担当G：生産環境G

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏
まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に
資する。当場ではねぎの病害および各種害虫の
誘殺状況を調査する。

(8) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤 (729400)

研究期間：昭和45年～継続

担当G：生産環境G

目 的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

4. 技術体系化に関する試験

本年は該当なし

5. 地域支援に関する試験等

(1)北空知地域におけるスターチス・シヌアータの品質保持技術の実証 (314125)

試験期間：平成24～25年

担当G：技術研修G

目 的：スターチス・シヌアータにおける茎葉の黄化症状の発生要因を解明し、品質保持技術の実証を行う。

(2)トマト褐色根腐病対策技術の実証

調査期間：平成24年

担当G：技術研修G、技術普及室

目 的：トマト褐色根腐病の防除対策のうち、フスマ施用による発病軽減効果を実証する。

V 研修事業の概要

1 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

2 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等に対し事業説明を実施するとともに、各種説明会等を開催したほか、円滑な研修の実施に資するため、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、実施・運営等についての検討・調整を行った。

(1) 研修事業説明の経過

○5月11日

平成24年度農業部会総会・第1回学校研究協議会
(北海道高等学校長協会農業部会主催)

○11月17日

新・農業人フェア2012(札幌会場)

○1月24日

新規参入予定者(新規参入者研修(農大))

○1月28日

新規参入予定者(ベーシックセミナー)

○2月20日

平成24年度地域農業技術センター連絡会議研究交流会

(2) 専門委員会開催内容

1) 研修事業運営委員会の構成

(平成24年4月現在)

委員長 川岸康司(技術研修G主幹)

副委員長 小田義信・鈴木亮子(技術研修G)

委員 白木和美・小田文子(総務課)、黒島学・
福川英司(花き野菜G)、林哲央・橋本直
樹(生産環境G)

オブザーバー 藤田寿雄(上席普及指導員 技術普及室)、
高橋恒久(主任普及指導員 技術普及室)

事務局 得能徹・佐藤勝宏(技術研修G)

2) 開催内容

○第1回委員会(2月6日)

議題

・協議事項

(1) 新技術セミナーについて

○第2回委員会(3月12日)

議題

・報告事項

(1) 平成24年度研修事業実績について

(2) 平成25年度総合技術研修受講予定者について

・協議事項

(1) 平成25年度研修事業(案)について

(2) 平成25年度総合技術研修カリキュラム(案)について

3 北海道花き・野菜技術研修

(1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的に、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	—
野菜栽培コース	—
土壌肥料コース	3 名
病害虫コース	(2)名
合 計	3 名

注) 2名は、土壌肥料・病害虫両コース受講。

2) 専門技術研修受講者及び研修内容

氏 名	所 属	期 間	主な研修内容
中川健太郎 戸張翔	法 人	5/14~7/11	土壌診断・病害虫防除 技術習得
田中将之	市町村	10/10~10/26	土壌診断・分析技術の 習得

(2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

1) 期間

4月11日～10月10日（6ヶ月間）

2) 受講者数

野菜コース 9名

3) 総合技術研修の受講者

氏 名	所属等	備 考
松浪 文博	小樽市	野菜コース
吉田 寛	千歳市	野菜コース
山内 洸太	ニセコ町	野菜コース
前畑 久美子	札幌市	野菜コース
城地 秀吾	岩見沢	野菜コース
松本 みゆき	札幌市	野菜コース
伊藤 茂	赤平市	野菜コース
住田 裕基	名寄市	野菜コース
太田 等	豊頃町	野菜コース

4) 総合技術研修の実施内容

区 分	主な内容(講師)	時 間
講 義	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌肥料(林主査(生産環境G)) ・病害虫防除(角野研究主幹、橋本主査、西脇研究主任(生産環境G)) ・施設資材利用等(外部講師) ・主要野菜栽培技術等(田中研究主幹、福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、高橋主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G)) ・雑草防除の基礎(外部講師) ・土壌の生成及び土壌改良(野田研究主任(生産環境G)) ・青果物鮮度保持等(田丸研究主査(生産環境G)) ・経営管理(外部講師) ・クリーン農業(外部講師) ・農業金融制度(空知総合振興局) ・その他(中野場長、長尾研究部長、藤田上席普及指導員(技術普及室)、田中研究主幹(花き野菜G)) 	野菜 67時間
実 習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜栽培等(田中研究主幹、福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、高橋主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G)) ・土壌分析等(野田研究主任(生産環境G)) ・病害虫防除技術(角野研究主幹、橋本主査、西脇研究主任(生産環境G)) ・ハウス組立(南主任ほか) 	野菜 102時間
栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜の栽培管理(野菜15品目(講師は講義・実習と同じ)) ・ハウス組立(南主任ほか) 	野菜 542時間
	卸売市場、先進農家等	
視 察 等	ミーティング、報告書作成等	野菜 21時間
その他		野菜 143時間
合 計		野菜 875時間

(3) 基礎技術研修（ベーシックセミナー）

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

1) 期間

花きコース 1月28日～2月1日（5日間）

野菜コース 1月28日～2月1日（5日間）

2) 受講者数

花きコース 5名

野菜コース 27名

3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き・野菜栽培概論	概 2時間	生方主任研究員、
主要品目の栽培技術	概 2時間	田中主幹(花き野菜G)
	花き 10時間	生方主任研究員、黒島主査、大宮研究主査(花き野菜G)、鈴木主査(技術研修G)
野菜	10時間	福川主査、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、高橋主任普及指導員(技術普及室)、川岸研究主幹、小田主査(技術研修G)
	2時間	林主査(生産環境G)
土壌改良と施肥管理	2時間	角野主幹(生産環境G)
病害虫防除	2時間	外部講師
施設・資材の利用技術	2時間	黒島主査(花き野菜G)
花きの輸送と鮮度保持	概 2時間	田丸研究主査(生産環境G)
野菜の流通と内部品質	概 2時間	外部講師
新規就農時の農地確保	1時間	外部講師
経営管理概論	3時間	外部講師
新規就農者の経営事例	2時間	農業者ほか
総合討論	2時間	〃 ほか
その他(講話、技術開発と普及)	2時間	中野場長、藤田上席普及指導員(技術普及室)
計	花き野菜各 30時間	

(4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受け入れ研修を実施した。

○フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援と研修修了者・現研修生の情報交流を目的に開催した。

日時 平成24年7月13日(金)

場所 花・野菜技術センター 講堂

内容

- ・事例報告、意見交換
- ・話題提供

受講者数 16名

○さつまいもセミナー

北海道でさつまいも栽培を普及させるために、北海道さつまいも懇話会と共催で、関係者による情報交換を行うセミナーを開催した。

日時 平成24年8月27日(月)

場所 大学・生産者ほ場

花・野菜技術センター 講堂、ほ場

内容

- ・ほ場の視察
- ・意見交換会

受講者数 50名

○施設園芸セミナー

施設園芸における先進的な施設の視察と、バラ栽培を中心とした先進的取り組み事例等の講演を行った。

日時 平成24年9月14日(金)

場所 生産者施設

花・野菜技術センター 講堂

内容

- ・地中熱ヒートポンプシステム、複層エアハウス等の視察
- ・講演「高収益を目指したバラ栽培とオランダでの現状」(講師：(株)誠和 主幹研究員 斉藤章氏)

受講者数 22名

〇いちごセミナー2012

道内春どりいちごの生産の現状と課題、いちごを巡る最近の話題、最新の四季なり性品種の栽培について、北海道園芸研究談話会と共催で、関係者による情報交換を行うセミナーを開催した。

日 時 平成24年10月9日(火)・10日(水)

場 所 北海道大学学術交流会館

生産者ほ場(岩見沢市、栗山町)

内 容

講演

- ・道内春どりいちご生産の課題と花・野菜技術センターにおける品種育成の取り組み
花・野菜技術センター 木村文彦研究主任
 - ・北斗市におけるいちご生産の現状と課題
渡島農業改良普及センター 前野利幸氏
 - ・比布町におけるいちご生産の現状と課題
上川農業改良普及センター 寺嶋教安氏
 - ・千歳市におけるいちご生産の現状と課題
石狩農業改良普及センター 宮町良治氏
 - ・市場からみた道内いちご生産の課題
丸果札幌青果(株) 石田繁氏
 - ・伊達市における宮城県亙理町いちご生産者受け入れの取り組みについて
伊達市経済環境部農務課 松井友行氏
 - ・第7回国際イチゴシンポジウムの報告
花・野菜技術センター 川岸康司研究主幹
- 現地視察
- ・「すずあかね」栽培ほ場(岩見沢市)
 - ・「UCアルビオン」栽培ほ場(栗山町)
- 受講者数 講演会：144名、現地視察：82名

〇花・野菜新技術セミナー2013

平成24年度に新たに開発した品種や栽培技術などの研究成果を農業関係者などに対し発表し、速やかな普及定着を図るため開催した。

日 時 平成25年2月26日(火)

場 所 たきかわ文化センター 小ホール

内 容 平成24年度の成績会議で普及奨励若しくは指導参考事項等となった技術(品種)等の伝達
新技術伝達

①新年に加工向けかぼちゃを出荷する方法

花・野菜技術センター 生産環境G 研究主任 野田智昭

②カット販売にも適した赤肉メロン品種の選定

花・野菜技術センター 花き野菜G 研究主任 八木亮治

③宿根かすみそうのセル成型苗を直接定植する栽培法

花・野菜技術センター 花き野菜G 主査 黒島学

④切り花「スノーボール」の仕立て法と出荷延長技術

花・野菜技術センター 花き野菜G 研究主査 大宮知

⑤高温期におけるスプレーカーネーションの花持ち向上技術

花・野菜技術センター 花き野菜G 研究主査 大宮知

⑥畑作物と野菜のリン酸肥料を節約できる!

花・野菜技術センター 生産環境G 主査 林哲央

⑦湿害軽減と修了確保への挑戦!

たまねぎと高畦移植栽培技術

花・野菜技術センター 花き野菜G 主査 福川英司

⑧平成25年に特に注意を要する病害虫

花・野菜技術センター 生産環境G 主査 橋本直樹

受講者 81名

(5)市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜及び当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

〇市民園芸セミナー

日 時 平成24年5月10日(木)

場 所 花・野菜技術センター講堂

内 容

・自家用野菜の作り方(基礎)

(講師：技術普及室 高橋恒久主任普及指導員)

参加者数 28名

〇フラワーデザインセミナー

日 時 平成24年8月7日(火)

場 所 花・野菜技術センター(講堂)

内 容

・押し花小物(うちわ)づくり教室

(講師：花工房「雅」 浅井万紀子氏)

参加者数 30名

(6) その他の研修

○JICA研修員受入事業

(滝川市国際交流事業)

日時 平成24年7月25日(水)
場所 花・野菜技術センター
内容 花・野菜技術センター概要等
参加者数 10名(モザンビーク共和国)

○農業大学校(稲作経営専攻コース)研修生受入事業

日時 平成24年8月6日(月)～8月10日(金)
場所 花・野菜技術センター
内容 花・野菜技術センターの概要
参加者数 10名

○試験研究体験ゼミナール(インターシップ)受入事業

日時 平成24年8月20日(月)～8月24日(金)
場所 花・野菜技術センター
内容 研究補助、作業体験等
参加者数 3名(学生)

○自治体職員教育交流研修員受入事業

(滝川市国際交流事業)

日時 平成24年8月29日(水)～8月30日(木)
場所 花・野菜技術センター
内容 野菜栽培概論等
参加者数 2名(モンゴル国)

○JICE研修員受入事業

日時 平成24年9月14日(金)
場所 花・野菜技術センター
内容 花・野菜技術センター概要等
参加者数 9名(中華人民共和国)

○JICA研修員受入事業

(滝川市国際交流事業)

日時 平成24年9月18日(火)
場所 花・野菜技術センター
内容 花・野菜技術センター概要等
参加者数 10名(ベトナム社会主義共和国)

○中学生職場体験学習受入事業

日時 平成24年10月18日(木)～10月19日(金)
場所 花・野菜技術センター
内容 研究補助、作業体験等
参加者数 2名(学生)

○農業大学校(新規参入者研修)研修生受入事業

日時 平成25年1月22日(火)～1月25日(金)
場所 花・野菜技術センター
内容 講義(園芸の最新技術と農業経営の現状)
ほか
参加者数 17名

4 研修ほ場等作付概要

区分	品 目	品 種	作 型
野菜	トマト	桃太郎ファイト、キャロル10	半促成
		桃太郎ファイト、麗夏、キャロル10、アイコ	ハウス雨よけ夏秋どり
	かぼちゃ	こふき、くりゆたか、えびす、黒皮味マロン、TC2A(ほっとけ栗たん)	露地早熟
	レタス	マイヤー、シルル	春夏まき
	スイートコーン	みわくのコーンゴールドラッシュ、味来390 ピュアホワイト	露地直はん
	たまねぎ	スーパー北もみじ、北早生3号	春まき
	キャベツ	アーリーボール、藍春ゴールド	晩春まき
	ほうれんそう	サイクロン、ブライトン	春夏まき雨よけ、夏まき雨よけ
	だいこん	貴宮、晩抽喜太一	春まき、初夏まき
	メロン	ルピアレッド、G08、北かれん	無加温半促成
	いちご	エッチェス138(夏美)、ほほえみ家族	夏秋どり(高設栽培)
	ピーマン	さらら、みおぎ	半促成
	ブロッコリー	ピクセル、サマーポイント	晩春まき
	ねぎ	元蔵、白羽一本太	夏秋どり
	アスパラガス	ウエルカム、ガインリム	露地、ハウス立茎

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料

(1) 研究報告

- Fukukawa, E., S. Tanaka, Y. Kimura and D. Yanagida. Efficiency of Plug Soil-Binding Method in Organic Onion Production. Proc. 6th IS on Edible Alliaceae, Ed.: T. Wako. Acta Hort. 969, 149-152 (2012).
- Maekawa, K., S. Tanaka, D. Yanagida, S. Koyano, T. Noda, M. Akiba, T. Majima, K. Kondo, T. Hagihara and N. Mori. 'Sojiro': Extremely Early Maturity Spring-Sowing Onion Hybrid with Resistance to Fusarium Basal Rot. Proc. 6th IS on Edible Alliaceae, Ed.: T. Wako. Acta Hort. 969, 103-105 (2012).
- 島義史、大久保進一、仁平恒夫：ミニトマトの省力・秋季安定生産技術導入の経済効果：北海道旭川市水稲・ミニトマト複合経営を対象として。農林業問題研究 48(2), 278-284 (2012)
- 西脇由恵。耐病性台木利用によるトマト褐色根腐病の発病抑制効果およびトマトの生育への影響。北日本病害虫研究会報。63: 52-56 (2012)
- 山崎永尋・尾崎紘子・谷耕一・橋本直樹。アスパラガスを加害するツマグロアオカスミカメの生態と防除対策。北農。79: 419424 (2012)
- Lan W.W., Nishiwaki Y., Akino S. and Kondo N. Soft rot of root chicory in Hokkaido and its causal bacteria. J. Gen. Plant. Pathol. (Online 2013)
- 福川英司・杉山裕・柳田大介・大久保進一・田中静幸。タマネギ有機栽培用育苗培土の固化剤散布方法の検討(第3報)低濃度多回数散布の機械移植実証及び現地における効果確認。北海道園芸研究談話会報。46: 58-59 (2013)。
- 黒島 学。デルフィニウム切り花の前処理液吸収量におよぼすプレハーベスト要因の影響。北海道園芸研究談話会報。46: 12-13 (2013)。
- 黒島 学。デルフィニウム切り花の前処理液吸収量に及ぼす栽培環境および前処理環境の影響。園芸学研究。12(別1): 413 (2013)。
- 大久保進一・福川英司。トマト3段密植栽培における湛液型簡易養液栽培の試み。北海道園芸研究談話会報。46: 36-37 (2013)。
- 大宮知。小輪性LAユリ'ピカリ'におけるりん片繁殖子球を利用した切り花栽培について。園芸学研究。12(別1): 210 (2013)。
- 田中静幸・室崇人・前川健二郎。第6回食用ネギ類国際シンポジウムの概況について。北海道園芸研究談話会報。46、74-75 (2013)。
- 生方雅男：北海道の施設園芸における空調機器の利用状況と研究動向、2012年度日本冷凍空調学会年次大会(2012.9)
- 生方雅男：北海道の施設園芸におけるヒートポンプの利用状況と研究動向、平成24年度農業農村工学会大会(2012.9)
- 生方雅男：北海道における空調機器の施設園芸への利用、第49回農業電化研究発表会(2012.11)
- 生方雅男・田中静幸。蜜源植物を利用した遊休農地の保全対策。園芸学研究。12(別1): 212 (2013)。
- 八木亮治・福川英司。カボチャの果皮温度が日焼け症状に及ぼす影響。北海道園芸研究談話会報。46: 50-51 (2013)。
- 柳田大介・杉山裕・田中静幸。加熱加工に適した高乾物率・高Brixの春まきタマネギ品種'北見交54号'の特性。園芸学研究。12(別1): 139 (2013)。
- 東田修司・林 哲央。北海道北空知地域の稲作地帯で使われる堆肥の肥効成分。日本土壤肥料学会講演要旨集。58: 128 (2012)
- 林 哲央・羽賀安春。無側枝性輪ギク「精の一世」の乾物生産および窒素吸収特性。日本土壤肥料学会講演要旨集。58: 131 (2012)
- 田丸浩幸・村田拓一・林 哲央。北海道の低温畑条件における被覆肥料からの窒素溶出と春まきキャベツに対する施用効果。日本土壤肥料学会講演要旨集。58: 133 (2012)
- 野田智昭。北海道に適した「さつまいも」品種の選定と栽培技術開発について。地域農業技術セ

ンター連絡会議 (NATEC) 研究情報交換会。
(2012.9.6)

○野田智昭. 北海道へのサツマイモ導入に向けて
一品種と栽培技術－. 第59回北海道土壌肥料懇話
会シンポジウム. (2012.12.6)

○野津あゆみ. 北海道におけるタマネギ灰色腐敗
病の接種時期と発病について. 第66回北日本病害
虫研究会研究発表会(2013.2.14 ポスター)

○中保一浩・前田征之・鍛冶原寛・野津あゆみ・
熊崎晃・瓦朋子多段接ぎ木トマト、ナスによる複
合土壌病害の防除(2013.3.25).

○鈴木亮子・小林孝夫・川名淳二 スターチス・
シヌアータの茎葉黄化に対する採花後遭遇積算温
度の影響. 北海道園芸研究談話会報. 46.(2013).

○前畑久美子、川岸康司、小田義信、高橋恒久
スイートコーンの生育初期における灌水処理によ
る収量への影響～雨害湿潤害を想定して～. 北海
道園芸研究談話会報. 46:54-55. (2012).

○高橋恒久 トマトに対する開花期の低温処理が
果実へ及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 46.
(2013)

○高橋恒久 夏秋どりトマトにおける秋期裂果軽
減対策の効果. 北海道園芸研究談話会報. 46.(20
13)

(3) 著書・資料

○木村文彦. 北海道クリーン農業技術集. みずな
土壌・施肥管理. ニューカントリー 2012年秋季
臨時増刊号. 168p-169p.

○大西忠男, 田中静幸. タマネギの作業便利帳,
農山漁村文化協会, 125p.

○林 哲央. にんじん土壌・施肥管理. “北海道
クリーン農業技術集”. 北海道協同組合通信社
(2012) 199-200.

○林 哲央. Q27～Q29. “土づくりQ&A第三編
有機物・緑肥・土壌の生物性”. 北海道農協
「土づくり」運動推進本部(2012) 56-61.

○野田智昭. Q30～Q31. “土づくりQ&A第三編
有機物・緑肥・土壌の生物性”. 北海道農協
「土づくり」運動推進本部(2012) 62-65.

○橋本直樹. 北海道クリーン農業技術集. こまつ
な・虫害防除. ニューカントリー 2012年秋季臨時
増刊号、172(2012).

○橋本直樹. 北海道クリーン農業技術集. チンゲ
ンサイ・虫害対策. ニューカントリー 2012年秋季
臨時増刊号、174-175(2012).

○橋本直樹. 北海道クリーン農業技術集. ピーマ
ン・虫害防除. ニューカントリー 2012年秋季臨時
増刊号、240(2012).

○橋本直樹. 北海道クリーン農業技術集. アスパ
ラガス・虫害防除. ニューカントリー 2012年秋季
臨時増刊号、260(2012).

○西脇由恵. 北海道クリーン農業技術集. ミツバ
・病害防除. ニューカントリー 2012年秋季臨時増
刊号、163(2012).

○西脇由恵. 北海道クリーン農業技術集. チンゲ
ンサイ・病害防除. ニューカントリー 2012年秋季
臨時増刊号、174(2012).

○西脇由恵. 北海道クリーン農業技術集. おうと
う・病害防除. ニューカントリー 2012年秋季臨時
増刊号、272-273(2012).

○野津あゆみ. 北海道クリーン農業技術集. トマ
ト・病害防除. ニューカントリー 2012年秋季臨時
増刊号、90-95(2012).

○野津あゆみ. 高接ぎ木法によるトマト青枯病総
合防除とその応用. 農業技術体系土壌施肥編追録.
(2012).

○角野晶大. 北海道クリーン農業技術集. ダイコ
ン・病害防除. ニューカントリー 2012年秋季臨時
増刊号、192-193(2012).

○角野晶大・富沢ゆい子. 北海道クリーン農業技
術集. セルリー・病害防除および土壌・施肥管理.
ニューカントリー 2012年秋季臨時増刊号、248-2
52(2012).

○鈴木亮子(共同編集). 北海道野菜地図(その
36). 編集発行 北海道農業協同組合中央会・ホ
クレン農業共同組合連合会(2013)

○川岸康司. けんたろう、主要品種の特性と作り
こなし型、最新農業技術、野菜Vol.5(農文
協編). pp.209-210. 農山漁村文化協会、東
京(2012.12)

○高橋恒久(共同編集). 北海道野菜地図(その
36). 編集発行 北海道農業協同組合中央会・ホ
クレン農業協同組合連合会(2013)

○藤田寿雄(共同編集). 北海道フラワーガイド

(その21) . 編集発行 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会(2013)

○藤田寿雄・高橋恒久(共同編集). 北海道農業生産技術体系(第4版). 編集発行 北海道農政部食の安全推進局技術普及課(2013)

(4) 専門雑誌・記事等

○福川英司. 貯蔵性と貯蔵後の食味に着目した品種特性. 農家の友. 64(7):42-44(2012).

○福川英司. 貯蔵性と貯蔵後の食味に着目した品種特性調査. ニューカントリー. 59(11):52-53(2012). ○木村文彦. 機械収穫に対応した加工用ほうれんそう栽培体系. グリーンレポート. 516:8-9(2012).

○木村文彦. 雪を活用したキャベツの貯蔵. 食生活. 107(3):40-44(2013).

○黒島学. ホワイトアスパラガス伏せ込み栽培における省力化. ニューカントリー. 59(10):50-52(2012).

○大宮知. ビブルナム「スノーボール」の栽培法と切り枝抑制開花. 農家の友. 709号:18-20(2013).

○大塚省吾・大久保進一. 北海道の気象条件を生かした春掘りニンジンの品質特性と栽培法. 農家の友. 42-43. (2012. 5)

○生方雅男「北海道における空調機器の施設園芸への利用」農業電化2012別冊. 2p-6p

○生方雅男「地中冷却によるスターチス・シヌアータの秋期切花品質向上」農業温暖化ネット

○林 哲央. 園芸作における有機物管理と窒素管理. 土づくりとエコ農業. 44(509):32-37(2012. 6)

○東田修司・林 哲央. 北空知の稲作地帯で使われる堆肥の肥効成分. 北農. 79(3):323-333(2012. 7)

○西脇由恵. トマト褐色根腐病の多発要因と総合防除対策. 農家の友9月号.(2012)

○西脇由恵. トマト褐色根腐病の多発要因および総合防除対策. ニューカントリー1月号.(2013)

○野津あゆみ. 高接ぎ木法によるトマト青枯病の耕種の防除対策の強化. ニューカントリー4月号.(2012)

○野津あゆみ. トマト青枯病からトマトを守る

「高接ぎ木法」. 農家の友10月号.(2012)

○野津あゆみ. トマト青枯病の被害を減らす「高接ぎ木法」について. あぐりぼーとNo. 97(2012)

○野津あゆみ. 高接ぎ木法によるトマト青枯病の耕種の防除対策の強化. 北海道有機農研No. 90(2012)

○高橋恒久. 平成24年技術総括 野菜・果菜類 農家の友. 64(12):44-45(2012)

○藤田寿雄. 平成24年技術総括 花き 農家の友. 64(12):48-49(2012)

○藤田寿雄. 特集 2013作物展望 花き. ニューカントリー. 60(1):62-63(2013)

(5) 新聞記事・広報誌、放送等

○木村文彦. 北海道は今が苺の旬. 北海道メールマガジン「D0・Ryoku」. (2012. 6. 8)

○木村文彦. 収量確保に向けて 秋季のいちご栽培管理のポイント. 農業共済新聞. (2012. 8. 29)

○黒島学. ホワイトアスパラガス もみがら使った伏せ込み栽培. 農業共済新聞. (2012. 9. 26)

○第62回全日本野菜品種審査会・第57回全日本花卉品種審査会授与式. 5/6号. 21-36. 種苗界(2012).

○北海道新聞「食の大地」書評「タマネギの作業便利帳」(大西忠男・田中静幸著)(2012. 10. 23)

○土肥紘. 書籍紹介「タマネギの作業便利帳」(大西忠男・田中静幸著). 北農. 80(1):118-119(2013)

○新品種「北かれん」に有望品種の折り紙 園芸新聞(平成25年1月27日. 1188号)

○野田智昭. 土壌還元消毒後のトマトハウス栽培における施肥指針. グリーンレポート. 28(9):12-13(2012. 9)

○野田智昭(取材協力). 研究紹介 道内で注目されるサツマイモの栽培技術の確立とカボチャの遅出しを目指した貯蔵管理技術の実用化に取り組む. 農耕と園芸. 67(12):62-65(2012. 12)

○西脇由恵. 北海道営農技術版 トマト褐色根腐病の防除対策. 農業共済新聞(2013. 2. 20)

○高橋恒久. 経営と技術 検証道農業 ③野菜・施設. 日本農業新聞(2013. 1. 8)

○藤田寿雄. 経営と技術 検証道農業 ④花き.

(6) 出願公表

○鳥越昌隆・田縁勝洋・入谷正樹・高宮泰宏・田中静幸・黒崎友紀・柴田浩之・三口雅人・前塚研二・岡崎智哉・澤崎明弘・高山直保・渡邊隆志・茂古沼真二・宮村透・赤間智吏. やまのいも「きたねばり」26714号(2012. 5. 29)

○柳田大介・西田忠志・野田智昭・田中静幸・杉山裕. たまねぎ「ゆめせんか」27652号(2013. 3. 25)

○柳田大介・宮浦邦晃・中野雅章・志賀義彦・田中静幸・入谷正樹・駒井史訓・小谷野茂和. たまねぎ「北見48号」27653号(2013. 3. 25)

(7) 品種登録

○八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅章・田中静幸・福川英司・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「北かれん」22170号(2013. 1. 28).

○八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅章・田中静幸・福川英司・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「DHM-R3」22171号(2013. 1. 28).

○八木亮治・地子立・堀内優貴・平井剛・中野雅章・田中静幸・福川英司・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「DHM-R4」22172号(2013. 1. 28).

○江部成彦・伊藤武・入谷正樹・田中静幸・千田圭一・大波正寿・池谷聡・藤田涼平・古川勝弘. ばれいしょ「コナユキ」21865号(2012. 7. 26)

(8) 受賞

○江部成彦、伊藤武、入谷正樹、田中静幸、千田圭一、大波正寿、池谷聡、藤田涼平、古川勝弘. 低リン酸・低老化性澱粉原料用馬鈴しょ品種「コナユキ」の育成. 日本応用糖質科学会北海道支部技術奨励賞(2012)

2. 印刷刊行物

本年度はなし

3. 普及事項

(1) 普及奨励事項

本年度は該当なし

(2) 普及推進事項

○ビブナム「スノーボール」の栽培法と切り枝抑制開花技術

○有機物の肥効評価と局所施肥を活用した畑作物・野菜に対するリン酸減肥指針

(3) 指導参考事項

○メロン(赤肉)品種の特性Ⅲ

○高温期におけるスプレーカーネーションの花持ち向上技術

○たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術(追補)

○たまねぎに対する除草剤「BAH-0805乳剤」の実用化

○にんじんに対する除草剤「SL-122顆粒水和剤」(にんじん1~2葉期)の実用化

○ハウス葉菜類における土壌熱水抽出性窒素に基づく窒素施肥の適正化

○キャベツに対する被覆窒素または苦土炭カル入りBB肥料の施用効果

○加工・業務向けかぼちゃの供給期間拡大技術

○にんじんの黒葉枯病に対する銅(水酸化第二銅)水和剤DF(46.1%(Cu 30.0%))(未登録)の効果

○ほうれんそうのべと病に対するシアゾファミド水和剤Fの効果

○たまねぎの灰色腐敗病に対するペンチオピラド水和剤Fの効果

○ミニトマトの灰色かび病に対するバチルスズブチリス水和剤(アグロケア)の効果

○ミニトマトの葉かび病に対するバチルスズブチリス水和剤(インプレッション)の効果

○すいかの炭疽病に対するピラクロストロビン・ボスカリド水和剤DFの効果

○なたねの菌核病に対するチオフアネートメチル水和剤(未登録)の効果

○にんじんのヨトウガに対するフルフェノクスロン乳剤の効果

- カリフラワーのコナガに対するクロラントラニ
リプロール水和剤Fの効果
- メロンのコオロギ類に対するイソキサチオン粒
剤（未登録）の効果
- メロンのコオロギ類に対するイソキサチオン粒
剤（未登録・処理量変更）の効果
- アスパラガスのネギアザミウマに対するジノテ
フラン水溶剤SGの効果
- アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対す
るアクリナトリン水和剤の効果
- アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対す
るクロチアニジン水溶剤（未登録）の効果
- アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対す
るジノテフラン水溶剤SG（未登録）の効果
- イネ科牧草のアワヨトウに対するMEP乳剤
（未登録）の効果

(4) 研究参考事項

本年度は該当なし

Ⅶ その他

1. 職員の研修

(1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
角野 晶大	管理職研修(研究主幹級)	道総研本部	札幌市	24. 6. 21～24. 6. 22
大久保進一	養液栽培	野菜茶業研究所 つくば拠点	つくば市	24. 12. 16～25. 3. 22

(2) 職場研修（集合研修）

研修内容	実施月日	時間	講師	参加人数
職場研修（交通安全講習会）	24. 9. 20	1:00	滝川警察署交通課長	47
職場研修（健康づくりセミナー）	25. 2. 21	2:00	道総研本部非常勤職員・保健師	19

2. 見学・参観

月日	団体名（人数）	月日	団体名（人数）
4月24日	佐賀県議員団・滝川市議会議員（6）	8月24日	JAきたそらち青果部豆類生産組合（20）
6月15日	花き流通情報連絡協議会〔ホクレン〕（15）	8月28日	長沼町報徳社（15）
6月21日	住友化学園芸株式会社〔札幌〕（13）	8月28日	日胆地区系統購買事業推進協議会〔ホクレン青果部〕（20）
6月21日	JA清里町女性部（59）	8月30日	茨城県JAなめがた甘藷部会（20）
6月22日	JAながめま青年部（50）	9月11日	旭川青果物生産出荷協議会東旭川支部〔JA東旭川〕（40）
6月26日	JAとうや湖ホーレン草部会（15）	9月13日	拓殖大学北海道短期大学〔函館〕（60）
7月3日	JA新篠津生産者（18）	9月14日	中国江蘇省農業科学院（11）
7月11日	JA佐呂間町蔬菜部会（12）	9月18日	平成24年度JICAモザンビーク集団研修ベトナムコース（10）
7月12日	JA東神楽青年部（21）	9月28日	古野電気株式会社技術研究所〔札幌〕（4）
7月17日	北北海道軟白ネギ生産組合〔JA北ひき〕（12）	9月28日	JA南信地区協議会〔JA長野中央会松本支所〕（21）
7月18日	（財）滝川市生涯学習振興会（30）	10月5日	洞爺そ菜園芸研究会〔JAとうや湖〕（7）
7月19日	JA長野県営農指導協議会野菜専門部（13）	10月10日	ファーム999〔月岡〕（15）
7月24日	札幌市農業委員会（26）	11月8日	宮城県加美農業高等学校（2）
7月25日	平成24年度JICAモザンビーク国別研修（10）	11月12日	独立行政法人 家畜改良センター十勝牧場種苗部（4）
7月26日	クレードル興農株式会社（35）	11月15日	落部花卉生産組合〔JA新はこだて八雲支所〕（10）
7月26日	フラワーショップいしざか商品管理部（3）	11月30日	積水化学北海道株式会社営業本部技術グループ〔岩見沢市〕（20）
7月26日	愛別町農業機械利用組合〔JA上川中〕（15）	12月5日	ヒートポンプ普及協議会〔北海道電力（株）〕（20）
7月30日	和歌山県農業大学校団（24）		

2月7日 宮崎県JA西都 (20)

月	団体数	人数
4月	1	6
5月	0	0
6月	5	152
7月	12	219
8月	4	75
9月	6	146
10月	2	22
11月	4	36
12月	1	20
1月	0	0
2月	1	20
3月	0	0

合計	36団体	696人

3. 研修生の受入れ (研修事業以外)

(1) 普及指導員研修

1) 新任者集合研修 7/2～7/10

研修項目	対象者	担当
道内主要野菜・花栽培に関する基礎的技術の習得	空知(本所)三宅 平 空知(北空知)林 和希 渡島(本所)萩原淳史 渡島(本所)元島美彩 上川(本所)有田匡志 上川(富良野)火ノ川祐貴 宗谷(本所)後藤賢治 網走(美幌)今野弘規 十勝(本所)石川弘大 十勝(東部)佐々木えり子 十勝(北部)坂井由香里 釧路(本所)中川奈穂子 釧路(東部)酒井麻子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

2) 専門技術研修 (野菜) 6/26～6/29

研修項目	対象者	担当
野菜の花芽検鏡・接ぎ木技術・品質分析技術技術の習得	渡島(南部)山口泰輔 石狩(北部)五十嵐美由紀 渡島(本所)深尾伸一 上川(土別)加賀屋綾子 檜山(本所)小澤 徹	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

3) 高度専門技術研修 (野菜)

6/4～6/8, 7/30～8/3, 9/3～9/7

研修項目	対象者	担当
トマト・メロン・いちご・かぼちゃ・葉菜類栽培技術の習得	空知(南東部)八重樫有紀 空知(中空知)下田祐規子 日高(西部)福原比奈子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

4) 専門技術研修 (花き) 6/26～6/29

研修項目	対象者	担当
主要花きの品種特性、新技術、挿し木等の繁殖技術の習得	空知(北空知)小林佐代 石狩(北部)浦上 渉	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

5) 高度専門技術研修 (花き)

6/18～6/22, 7/30～8/3, 9/3～9/7

研修項目	対象者	担当
花き開花調節技術、品質保持技術等の習得	後志(本所)寺西範晃 胆振(東胆振)千石由利子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

4. 委員会活動

(1) 各専門委員会の名簿

(平成24年3月31日現在)

ア. 業務委員会

川岸康司(委員長)、岩橋広樹(総務課)、木村文彦(花き野菜G)、田丸浩幸、野津あゆみ(生産環境G)、小田義信、及川 忠、南 貴夫、(技術研修G)

イ. 環境整備委員会

田中静幸(委員長)、岩橋広樹(総務課)、林哲央(生産環境G)、鈴木亮子、及川 忠(技術研修G)

ウ. 情報・図書委員会

角野晶大(委員長)、白木和美、土田操(総務課)、木村文彦(花き野菜G)、西脇由恵(生産環境G)、得能 徹(技術研修G)、橋本直樹(場内システム委員)

エ. 研修事業委員会

V 研修事業の概要参照

(2) 各専門委員会の活動

1) 業務委員会

ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月5日～11月22日、毎週1回
- (イ) 冬期：12月26日～3月28日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月13日

イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事（排水路、暗渠）
- (エ)ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

ウ. 主催行事

- (ア) 植栽&ご苦労さん会 6月22日
- (イ) 収穫祭 10月26日

2) 環境整備委員会

(ア) 展望台：ラベンダー、グラウンドカバープランツ、小果樹園の管理

- (イ) 庁舎前花壇：マリーゴールド他(6/21)、チューリップ(10/26)の定植
- (ウ) 旧十勝道路沿い：清掃、ハマナス、アジサイ等の除草、冬囲い
- (エ) その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

3) 情報・図書委員会

ア 情報図書委員会の開催

- ・第1回情報図書委員会(4月20日)：活動・予算計画、過去の年報
- ・第2回情報図書委員会(3月13日)：活動の総括、次年度への懸案事項、年報原稿依頼、見学案内原稿依頼

イ 見学案内に関する事

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサルの開催(5月22日)
- ・総合研修生の参加呼びかけ

ウ 場の広報に関する事

- ・平成23年度年報の作成とHP掲載
- ・場のパンフレット作成(2000枚)
- ・ロビー設置ポスターおよびちらしの展示・更新(技術研修Gに実施いただいた)
- ・過去の年報のHPへの掲載(準備中)

エ 法人情報システム(含むホームページ)の管

理・運営に関する事

- ・HP統一画面への変更ができなかった。
 - ・HPの更新(センターナウ10回、花インフォ1回、営農技術対策7回、研修情報他広報関連15回、事務関連3回の合計36回更新)
 - ・園芸談話会HPの管理(木村研究主任対応)
 - ・場代表アドレスの管理(研究部長対応)
- #### オ 図書の整備(購入)および管理に関する事。
- ・図書資料の受け入れと購入
 - ・図書室の運営の改善(雑誌類の第2図書への移動と一覧作成、図書配置図の更新)
 - ・成績書および定刊等の製本は予算の都合でできなかった
 - ・雑誌類の簡易製本を実施

5. 公開デー 2012 の実施

8月7日(火)に実施。

(来場者数：270名)

(ア) 屋内会場の催し物

- フラワーデザインセミナー(研修G)
 - 病害虫診断コーナー(生産環境G)
 - 土壌診断コーナー(生産環境G)
 - 園芸相談コーナー(技術研修G)
 - パネル展示コーナー
 - 塗り絵コーナー
 - 展示温室：ダリア品種・さつまいも・花壇苗
- #### (イ) 屋外会場の催し物
- メロン品種の試食(花き野菜G)
 - 花と野菜の苗当て・仲間当てクイズ(花き野菜G)
 - 農業機械展示(技術研修G)
 - 飲食及び農産加工品直売コーナー
山本石材
滝川食と農を考える女性の会
り・ふありーぬ
- #### (ウ) ほ場での催し物
- ハウス圃場案内
 - 研修圃場の紹介

6. 講師等の派遣

- 大宮知. 北空知広域連花木類部会 スノーボール抑制開花説明会(2012.4.3)

- 大宮知. 北空知広域連草花類花木類現地講習会 (2012. 5. 15)
- 大宮知. カーネーション技術経営研修会. 社団法人日本花き生産協会カーネーション部会 (2012. 10. 18-19)
- 大宮知. 北空知広域連花木類部会反省会現地試験状況報告 (2012. 11. 20)
- 大宮知. スプレーカーネーションにおける高温期の花持ちについて. 北海道花き生産流通セミナーカーネーション部会分科会 (2011. 11. 21)
- 大宮知. 北空知広域連花木類部会スノーボール勉強会現地試験結果報告 (2013. 3. 25)
- 木村文彦. 新鮮さと栄養分が長持ち! 雪中貯蔵キャベツをきれいに作る技術ほか. 和寒町キャベツ部会栽培講習会 (2012. 4. 4)
- 木村文彦. 加工向けハウレンソウの収穫機械化. 十勝農業機械化懇話会講演会 (2013. 2. 15)
- 生方雅男: 北海道における空調機器の施設園芸への利用. 第49回農業電化研究発表会 (2012. 11. 15)
- 生方雅男: 地中熱交換システムを活用した低コスト施設園芸生産の可能性について. 空知エコ普及環づくり協議会 (2013. 3. 27)
- 福川英司. キャベツ (良質系) 品種圃場検討会ほか. 北海道種苗協同組合平成24年度夏季研修会 (2012. 9. 7)
- 大宮知. 切り枝「スノーボール」の仕立て法と出荷延長技術. 北海道種苗協同組合平成24年度冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 大宮知. 高温期におけるスプレーカーネーションの花持ち向上技術. 北海道種苗協会冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 黒島学. 宿根かすみそうセル成型苗直接定植栽培法. 北海道種苗協同組合平成24年度冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 八木亮治. メロン (赤肉) 品種の特性Ⅲ. 北海道種苗協同組合平成24年度冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 八木亮治. 加工業務向けかぼちゃの供給期間拡大技術. 北海道種苗協同組合平成24年度冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 福川英司. 有機物の肥効評価と局所施肥を活用した畑作物・野菜に対するリン酸減肥指針. 北海道種苗協同組合平成24年度冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 福川英司. 平成24年度の発生に鑑み注意すべき病害虫. 北海道種苗協同組合平成24年度冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 福川英司. 農試よりの新技術ほか. 北海道種苗協同組合平成24年度冬季研修会 (2013. 2. 19)
- 八木亮治. 花・野菜技術センター育成のメロンについて. 第41回キングメルター会総会 (2012. 12. 6)
- 八木亮治. 第20回北海道メロンサミット会 (2012. 12. 17)
- 野田智昭. 農産物の鮮度保持. 農業大学校畑作園芸機械施設演習. (2012. 10)
- 橋本直樹. 花き類に発生する害虫の見分け方とその防除法. 近年問題となっている害虫について. 平成24年度空知農業改良普及センター園芸部会花き担当者会議 (2012. 9. 19)
- 橋本直樹. 花き類に発生する害虫の見分け方とその防除法. 近年問題となっている害虫について. 平成24年度空知農業改良普及センター園芸部会花き担当者会議 (2012. 9. 19)
- 西脇由恵. これまでのサンダーソニアの障害等診断状況について. H24年度道北なよろ花き生産組合サンダーソニア部会反省会 (2012. 12. 12)
- 野津あゆみ. メロン苦味果について. 第20回北海道メロンサミット会 (2012. 12. 17)
- 野津あゆみ. メロン苦味果について. JAふらのメロン懇談会 (2013. 2. 7)
- 野津あゆみ. メロン苦味果について. 後志地方農業技術支援会議 (2013. 3. 14)

7. 各種委員

- 長尾明宣. 北海道園芸研究談話会幹事 (2011. 12. 5)
- 生方雅男. 植物工場戦略ワーキンググループ委員. 北海道食産業総合振興機構
- 生方雅男. 北海道養液栽培 (植物工場) 研究会運営委員
- 藤田寿雄・生方雅男. 北海道切花品評会審査員. 札幌市. (2012. 7. 19)
- 藤田寿雄・生方雅男・黒島学. 北海道鉢花品評

会審査員。札幌市。(2012.11.22)

○黒島学。JA三石切り花審査会審査委員。新ひだか町。(2012.7.5)

○田中静幸。北海道園芸研究談話会幹事(2011.12.5)

○田中静幸。ISEA2012(第6回食用ネギ類国際シンポジウム)プログラム委員(2011.4.1)

○鈴木亮子。JA南るもい花き生産組合立毛コンテスト審査員(2012.7.23)

○鈴木亮子。鉢花品評会2012審査員。愛知県豊明市。(2012.11.21)

○鈴木亮子・高橋恒久。北海道野菜地図編集委員

○鈴木亮子。北海道花き懇話会監事

○川岸康司。北海道フードマイスター検定運営委員、現行小委員

○藤田寿雄。農業共済損害評価会・施設園芸共済部会・損害評価会委員。札幌市。(2013.2/27)

○高橋恒久。農業共済損害評価会・畑作物部会・損害評価会委員。札幌市。(2012.7/18,11/16,12/14,1/19,2013.3/13)

Ⅷ 自己点検への対応

平成24年度 点検表

事 項	点数	備 考
重点研究課題	2	リン酸施肥、いちごの自立型採種育苗
H24から新規に実施する研究課題数	4	
経常研究課題数	19	
公募型研究への応募課題数	2	花持ち保証、カボチャ端境期出荷
一般共同研究課題数	1	赤肉メロン育種
民間受託研究課題数等	10	民間受託(5)、道受託(3)、奨励研究(2)
研究成果発表会の開催件数	1	新技術セミナー(81名)
研究会等の開催件数	1	リン酸削減試験現地検討会(27名)
発表会・展示会等への出展件数	4	サイエンスパーク、新技術発表会、花野新技術発表会等
普及組織と連携した普及状況	32	スターチスに関する試験における調査、打ち合わせ等
学会誌、雑誌などへの投稿	3	
学会・研究会・新技術発表会等への発表	41	
技術相談の実施状況	223	
雑誌、書籍、新聞等における研究成果	45	雑誌(24)、書籍(10)、新聞(11)
技術指導の実施状況	36	
技術審査の実施状況	5	切り花品評会における審査等
研修会・講習会等の開催状況	5	いちごセミナー2012、さつまいもセミナー等(総計234名)
研修者の延べ受入人数	63	専門(3名)、総合(9名)、インターン(3名)、フォローアップ(16名)、基礎技術研修(32名)等
視察者・見学者の受入件数	36	708名
道民向けセミナーの開催件数	2	市民園芸セミナー(28名)、フラワーデザイン(30名)
公開デー等の延べ参加者数	270	8月7日開催
学会等役員・委員等件数	11	北海道野菜地図編集委員、北海道園芸研究談話会幹事等
国際協力事業等への協力件数	5	モンゴル、中国、ベトナム等(総計43名)
道関係部との連絡会議等の開催件数	17	北海道野菜ブランド品種認定委員会等
市町村との意見交換等の開催件数	1	北空知農業振興談話会拡大幹事会
国内研修Ⅱ(学会等)の派遣件数	3	
企業等への訪問件数	11	
関係団体等との意見交換等の開催件数	15	スイカ炭疽病報告会、野菜低コスト生産実証試験設計会議等
ホームページ更新件数	35	
グリーン購入の金額	1663	千円

ISSN 1346-7506

平成24年度 (2012)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター年報

平成25年7月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800

Fax. 0125-28-2165 (総務課)

Fax. 0125-28-2299 (研究部、技術普及室)
